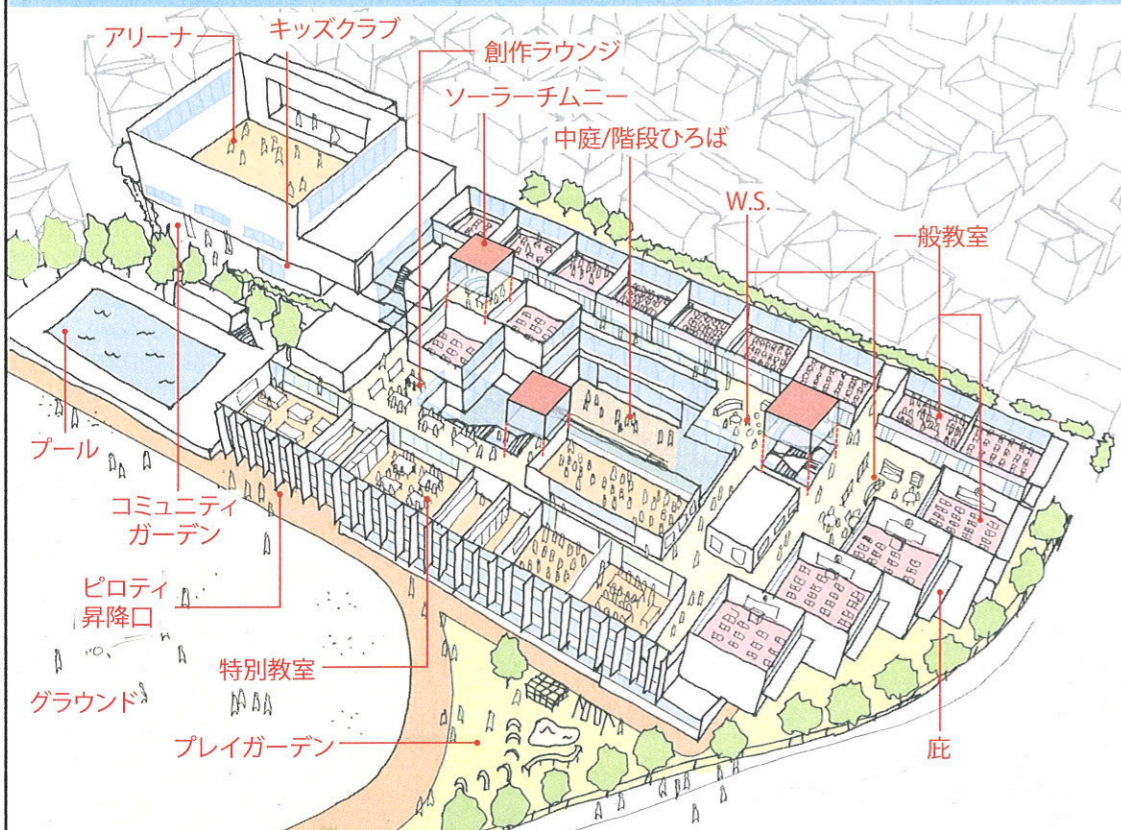


件名	上菅田小学校建替え工事に伴う設計業務委託	事務所の称号または名称	株式会社 コンテンポラリーズ
----	----------------------	-------------	----------------

①施設計画の考え方についての提案



■『交流』を通して多様な個性を育む明るい地域の学校

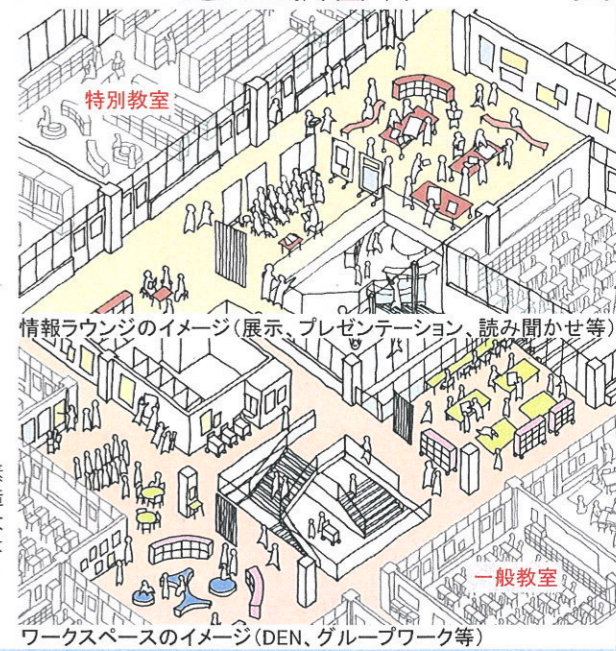
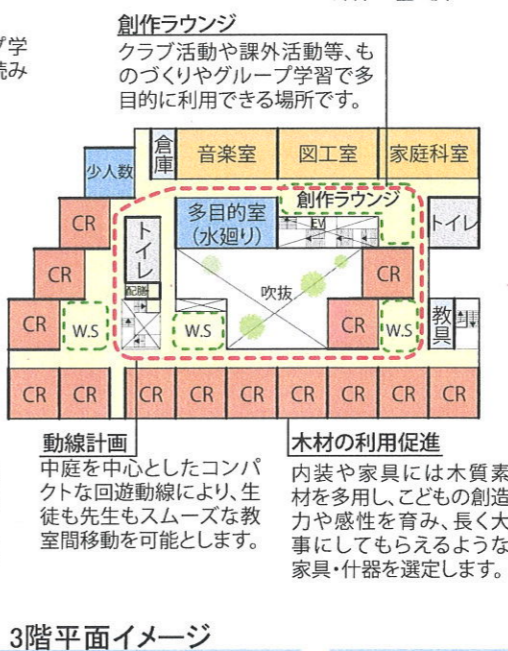
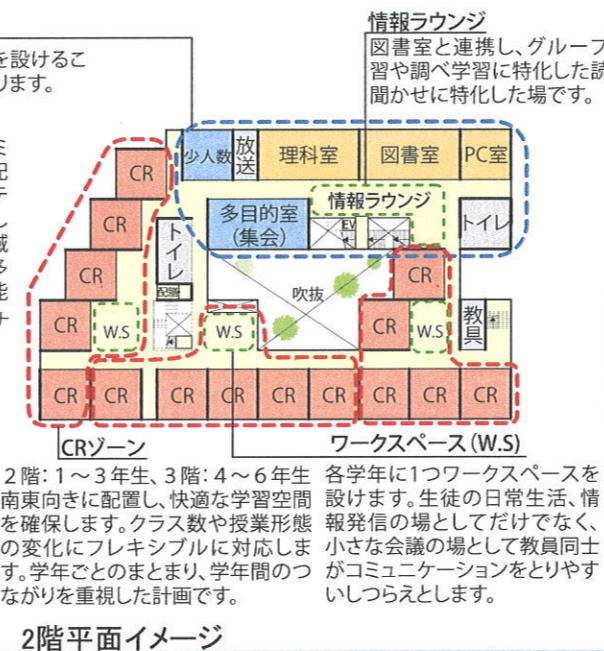
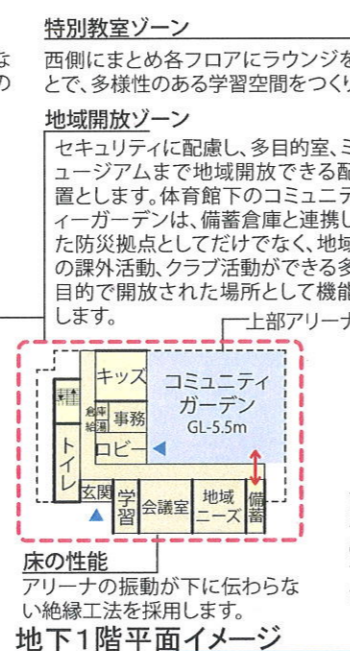
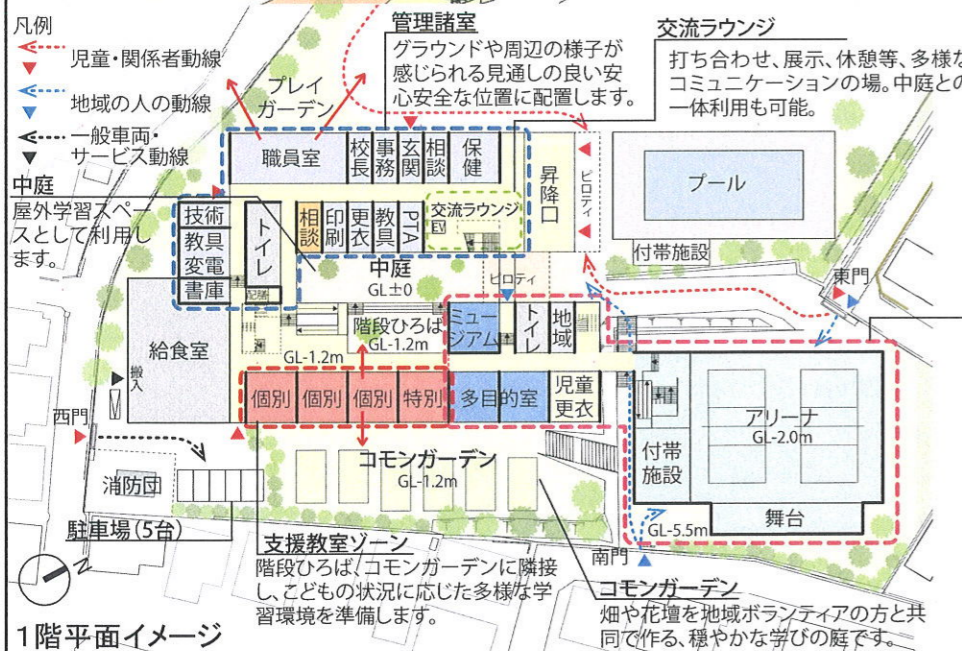
- ・子どもたちだけでなく、保護者や地域の学びの拠り所として、世代を超えた『交流』を育む学校を目指します。
- ・中庭の吹き抜け空間を中心に、学年ごとのワークスペース(以後W.S.)や学年を超えて集まれるラウンジスペース(以後L.S.) (交流・情報・創作)を各階に設け、多様な授業形態や発表形式に対応します。W.S.では小さなグループワークやクラス間交流、L.S.ではプレゼンテーションや展示など、子どもの成長を学校全体で見守ることが可能な構成です。教室だけでなく、L.S.やW.S.には自然光と通風が感じられる明るい学校です。

■機能的で合理的な利用しやすい学校

- ・一般教室を全て南面、東面に配置します。特別教室棟や職員関連は主に西面に配置されグラウンドや正門を管理しやすい配置です。
- ・教室は3学年が同じフロアで計画されており、学年間連携もスムーズです。行き止まりのない回遊式の動線を採用し、子どもたちや先生たちの不安を軽減します。
- ・アリーナは高さを抑え、東側の教室は住宅との十分な距離を確保します。南側の教室は雁行配置とすることで周囲の住宅に呼応したスケールとし、圧迫感を低減します。

■地域に開かれた親しみやすい学校

- ・地域コミュニティのシンボルとなるような開かれた学校づくりを目指します。学校・地域・家庭が一体となって子どもたちの成長を見守っていく空間・仕組みの提案です。
- ・東門や南門に近いアリーナやコミュニティハウスなど、明確なゾーニングでミュージアムや地域交流室など1階でまとめ、近隣の住民も近寄り易く、利用しやすい施設配置です。特別教室棟も独立して利用でき、積極的に地域に開かれた学校を目指します。



1階平面イメージ

■環境に配慮し教育の一環となる学校

自然エネルギーの活用を軸に、建物に様々な環境的な仕掛けを取り入れ、環境について学び意識を高める学校を提案します。

- ・夏季冬季の日射を考慮し、南東面には庇、西面には縦型ルーバーを設け、適切な自然採光で熱負荷の少ない開口部を計画します。
- ・吹抜け上部のハイサイドライトを活かし効率的に自然換気を行うソーラーチムニーを設置します。空調設備になるべくたよらない風の流れを体感できる計画とします。
- ・自然通風による冷房負荷の低減を図ります。
- ・太陽光発電、放射冷房ラジエーター、雨水の中水利用を採用し、自然エネルギーの「見える化」を図ります。
- ・シンプルな設備による合理的な設計により、LCCの削減、施設の長寿命化に配慮します。

断面イメージ

2階平面イメージ

2階: 1~3年生, 3階: 4~6年生 各学年に1つワークスペースを南東向きに配置し、快適な学習空間を確保します。クラス数や授業形態の変化にフレキシブルに対応します。学年ごとのまとまり、学年間のつながりを重視した計画です。

3階平面イメージ

3階: 各学年に1つワークスペースを南東向きに配置し、快適な学習空間を確保します。生徒の日常生活、情報発信の場としてだけでなく、小さな会議の場として教員同士がコミュニケーションをとりやすいつらえとします。

②工事中の安全・近隣環境への配慮についての提案

工事中の近隣への配慮について

- ・工事車両の出入りを正門からとし、敷地周辺を工事車両が通行することによる不安を解消します。通学通勤時間帯には時間制限を設け、搬出入ルートなどを詳細にし、事故への不安などを軽減します。
- ・解体時は低騒音・低振動のワイヤーソー工法などを用いて解体します。また近隣への音・粉塵などに配慮した足場計画と共に防音パネルや防塵ネットを使用します。

安全で効率的な施工計画について

- ・アリーナ棟→東棟・南棟・西棟、プールの順番で施工します。アリーナ棟はボリュームや防音などを踏まえ構造計画を吟味し工程を短縮する方法を提案します。
- ・クレーンの設置位置を1か所または2か所にまとめ、効率の良い施工計画を提出します。
- ・搬出土の軽減や工期の短縮を考慮し、敷地内レベル差を活かした造成計画とします。

③設計業務の成果物等の品質確保、業務の進め方及び取組体制について

- ・設計初期段階で要求条件を集中的に整理するフロントリーディング型の課題解決を図り、課題の先送りや手戻りを最小限に抑えます。
- ・発注者、設計事務所、関係官庁の相互関係と作業内容のネットワークフロー工程表を作成し、関係者間の確実な情報共有を図ります。
- ・成果物は、担当者間でピアチェックと総括責任者による照査体制で品質を確保します。協力事務所とは各段階において総合的に図面間の整合性を確認します。
- ・発注者とはコミュニケーションを密にとり設計打ち合わせを定例化し、模型やパース等のわかりやすい資料を用いて円滑な情報共有を図ります。
- ・工法及び設備方式の比較検討案を提示し方針を決定します。